

## 【単年度事業評価様式】

**西区地域子育て支援拠点事業**  
**令和5年度重点目標評価結果・令和6年度重点目標**

事業実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日(3年度目/5か年度)
事業の実施者	特定非営利活動法人シャーロックホームズ 西区こども家庭支援課
事業目的	市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。 【事業・施設運営の基本理念】 1 西区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

## 令和5年度重点目標の評価

令和5年度重点目標	多様化している養育者のニーズに対応するため、様々なテーマのイベントを充実させるとともに、こども及び養育者同士が交流できる仕組みを構築する。
取組内容	・養育者の関心が高いテーマのイベントを予約不要で複数回実施する。 ・これまでに形成してきたネットワークを活かし、ダブルケア、発達に心配がある養育者、障害児等の支援を充実させる。
取組の成果	・ダブルケアについては、当事者向けダブルケアカフェだけでなく、専門職向けや地域の方向けの講座も開催し、多くの人に「ダブルケア」について知ってもらえた。「知ることで、各々の活動に活かすことができる」との声をもらった。 ・発達に心配のある子をもつ養育者のための会も3年目となったが、会の存在が少しずつ周知され、先輩ママの話を聞きたいという希望者も現れ、じっくり話し、わが子の少し先を見通す機会となっている。 ・おしゃべりの会については、ダウン症児のみならず、その他の障害にも範囲を広げることで、つながり先がなかった養育者たちがつながり、悩みを共有できる場が広がった。また、ダウン症児の養育者たちが自主的な会を立ち上げ、区内で定期的に開催するようになり、よりつながる機会が増えている。 ・養育者の関心の高い新しいテーマのイベントも増やすことができ、参加者の満足度も高かった。(関西人集まれ！、家計講座、出張マザーズハローワーク等) ・ネットワークを活かし、他部署や団体と連携して、多くの事業・イベントを実施することができた。(学生企画！みんなどおしゃべり、家計講座、出張マザーズハローワーク、ダブルケア) ・LINEグループによるパパ達の交流をきっかけとして、2月の音楽コンサートの企画段階から当事者のパパたちが参画し、主体的にイベントに関わってもらうことができた。
取組の課題	・従来行っている予約制イベントが数多くあり、新規イベントでも講座形式のものは事前把握のために予約制にすることが多かったため、予約不要のイベントの回数はあまり増やせなかった。 ・引き続き養育者の関心が高かったり、普段拠点を利用していない層を対象としたテーマのイベントを実施することで幅広い層の拠点利用を促していく。

## 次年度重点目標

令和6年度重点目標	・多様化している養育者のニーズに対応するため、引き続き、様々なテーマのイベント等を充実させるとともに、ひろは内での親の交流が深まるような仕掛けづくりを行う。 ・乳児のみならず幼児でも利用しやすい環境をつくる。 ・様々な情報ツールやアプローチ方法を用いることで、養育者が求める情報をより手軽に得られる体制をつくる。
取組内容	・幼児向けやパパ向けの時間帯の設定をすることで、普段来館していない層の利用を促す。実施に当たっては他の養育者も安心して利用できるよう、コーナー分けを行うなど工夫をする。 ・様々なテーマでのトークイベントの実施することで、利用者同士の交流を促進する。 ・ネットワークを活かし、様々な養育者のニーズに応えたイベントを実施する。 ・令和6年度から横浜市の新拠点システムや子育て応援サイト・アプリ(仮称)がスタートするのに合わせ、スマートフォンからワンストップで拠点の情報が手軽に得られるようにホームページを改修するとともに、公式LINEの配信形式を変更することで見やすさの改善を図る。 ・イベントについては、事前周知だけでなく、実施結果や参加者の声を通信などで発信することで、養育者の参加意欲を高める。